

地域医療審議会審議経過

令和2年度～令和3年度

加賀市地域医療審議会

1	加賀市地域医療審議会の組織.....	2
2	加賀市地域医療審議会の目的.....	2
3	審議の経過.....	3
4	地域医療の充実についての意見.....	3

1 加賀市地域医療審議会の組織（令和4年3月1日現在）

会 長	上棚 直人（加賀市医師会会長）
副会長	沼田 直子（石川県南加賀保健福祉センター所長）
委 員	新家 尚子（加賀市各種団体女性連絡協議会副会長）
委 員	伊勢 拓之（独立行政法人国立病院機構石川病院院長）
委 員	河村 勲（加賀市医師会顧問）
委 員	車谷 勝行（石川県薬剤師会加賀支部相談役） ※
委 員	小橋 一功（加賀市医療センター病院長）
委 員	鈴木 一（加賀市歯科医師会会長）
委 員	高崎 茂（市民委員 [公募]）
委 員	谷村 団司（加賀市社会福祉協議会事務局長）
委 員	土屋 弘行（金沢大学附属病院整形外科教授）
委 員	出口 康（医療法人社団慈豊会久藤総合病院副院長）
委 員	中野 裕紀（加賀市介護サービス事業者協議会会長）
委 員	前川 敏康（市民委員 [公募]）
委 員	棟居 俊夫（医療法人社団長久会 加賀こころの病院院長）

※令和4年3月就任（令和2年6月から令和4年2月までは田端 敏郎）

（敬称略委員は50音順）

2 加賀市地域医療審議会の目的

本審議会は、加賀市地域医療審議会条例第1条の規定に基づき、加賀市の地域医療の充実を図ることを目的とする。審議会は、同条例第2条の規定に基づき、市長の諮問に応じ、地域医療施策に関する事項について調査審議し、市長に答申する。

3 審議の経過

- 令和2年度第1回会議

日時：令和2年6月11日（金）19時30分～20時50分

場所：加賀市役所 別館 301会議室

- 会議内容

- (1) 会長、副会長の選出

委員の互選により会長に上棚直人氏、副会長に沼田直子氏を選出した。

- (2) 本審議会の目的と審議すべき課題について説明が行われた。

- (3) 加賀市長より地域医療の充実を図ることについての諮問を受けた。

- (4) 加賀市医療センター改革プラン進捗状況について説明が行われ、意見が交わされた。

- (5) 山中温泉ぬくもり診療所の運営状況、公募について説明が行われ、意見が交わされた。

- 令和3年度第1回会議

日時：令和4年3月1日（火）19時30分～●時●分

場所：加賀市医療センター KMCホール

- 会議内容

- (1) 加賀市医療センター改革プラン進捗状況について説明が行われ、意見が交わされた。

- (2) 山中温泉ぬくもり診療所の運営状況について説明が行われ、意見が交わされた。

- (3) 加賀看護学校について説明が行われ、意見が交わされた。

- (4) 地域連携の取り組みについて説明が行われ、意見が交わされた。

- (5) 加賀市の地域医療の充実に関する答申書（案）について説明が行われ、意見が交わされた。

4 加賀市の地域医療の充実についての意見

【現状・取組状況・今後の方針】として市が示した報告、説明を確認し、これらに対する意見を【審議会の意見】に示す。

(1) 加賀市が設置する医療機関について

① 加賀市医療センターについて

【現状・取組状況・今後の方針】

○加賀市医療センター改革プランの進捗状況から

地域医療構想を踏まえた役割の明確化

- ・認知症高齢者の増加に向けた対策の強化として、かかりつけ医等認知症対応力向上研修 地域事例検討会や認知症サポート養成講座を職員向けに実施した。
- ・がん治療体制や周産期の受入促進を行い、がん、周産期などの疾病・分野ごとの医療提供体制の充実を図っている。
- ・救急搬送を断らない体制を維持しており、また高次医療機関との連携も行っているなど、石川中央と連携した診療体制を確保している。
- ・医療従事者の育成・確保として基幹型臨床研修機関の指定を受け、金沢大学の研修医を受け入れている。常勤医師は増員しており、更にキャリアアップできる病院として環境づくりに努めていきたい。
- ・入退院支援職員や在宅医療コーディネーターを配置し在宅復帰支援に対する取り組みを強化している。また、市内医療機関・歯科医院・薬局・介護事業所等を含めた交流会を実施し、顔の見える関係づくりに努めている。医療センターにおける訪問看護事業は、早期に退院となるような難しいケースで民間事業所がカバーできない隙間部分を担っていく。
- ・予防の推進と健康づくりへの支援として、健診センターを充実させ、出前講座等の健康づくりの講座を実施した。
- ・地域包括ケアシステム構築に寄与する人材の育成を図り、様々な研修や実習に参画している。

- 加賀看護学校の加賀市医療センター周辺への移転に向け、特色あるカリキュラムや、他施設との併設を検討し、計画策定・設計を行い、令和7年度からの開校を予定している。

【審議会の意見】

- ・以前よりウォークイン患者が多く、医師が疲弊しているが、できるだけ医師の負担を減らす対応を考えたい。(R2①上棚委員)
- ・外来患者の移行に関して、紹介率の数値(年次)があまり増加していない。再診の患者が多くいるのではないかと思うが、新しい試みを考えてほしい。(R2①伊勢委員)

- ・情報提供書等の雛型を作成し、活用されるよう検討してほしい。(R2①伊勢委員)
- ・計画に対してどのような実績であったのか、という見方を持ってほしい。(R2①高崎委員)
- ・計画を立てて行動して、見える化をしたほうがよい。(R2①上棚委員)
- ・加賀市医療センターを基幹病院とする初期研修医が二年前から二名入られて、非常に画期的なことだと思う。この傾向が今後も継続されることを期待しております。(R2①棟居委員)

② 山中温泉ぬくもり診療所について

【現状・取組状況・今後の方針】

- ・山中温泉ぬくもり診療所は統合新病院の検証委員会の答申を受け、山中地区の地域医療の激変緩和として市は地域医療振興協会を指定管理として設置したものである。
- ・令和2年度に継続運営可能な提案を期待し公募した結果、引き続き地域医療振興協会を指定管理として令和3年4月から5年間、指定管理として選定した。
- ・令和3年4月以降から、運営の健全化を考慮し、診療科は内科のみを基本とし、眼科及び耳鼻咽喉科を廃止した。
- ・決算状況については、赤字が続いている。新型コロナウイルス感染症の影響もあるため診療所収益は減少している状況であるが、光熱費等の経費削減に努め収支改善を図っている。

【審議会の意見】

- ・収支は随分改善されていると思われる。児童発達支援・放課後等デイサービス利用者と収益について増加しており、この数値は評価すべきではないかと思う。(R2①沼田委員)
- ・プロポーザル方式の際は、加賀市が指定管理者にどのような機能やポイントを重視して、この診療所を活かすのかという視点がないと、選定する際にも一体どこが良くて、どのニーズに合わないのかが見えにくい。(R2①沼田委員)
- ・平成30年度と平成29年度の一日平均患者数を比較したところ、ほぼ変化がない状態である。目標を決め、成果が上がってこなければならないと思う。(R2①上棚会長)
- ・一日平均患者数の目標について、少しずつ割ってきていることは、激変が少しずつ緩和している証であると思いますし、ある一定の役割は終えてきたのかと思います。(R2①鈴木委員)
- ・今の時代のニーズの中で、特に発達障害等の問題を抱えた子ども等、行政的なニ

一ズとしては非常に高いと思われる。加賀市において、この機能を無くさないよう他でどうやっていくのかという視点をお持ちいただきたいです。(R2①沼田委員)

(2) 地域連携の推進について

【現状・取組状況・今後の方針】

- ・加賀市医療センターの「地域連携センターつむぎ」には、病院の地域連携部門に加え、市の地域包括支援サブセンターを配置している。
- ・患者が早期に生活の場に戻り、また、できる限り住み慣れた地域での生活を続けられるためには、医療と介護の関係機関、専門職が役割を分担しつつ連携しながら支援を行う必要があるとの認識の下、そのような役割を担う人材を「在宅医療コーディネーター」として「地域連携センターつむぎ」に配置し、市内における医療と介護の連携推進に取り組んでいる。
- ・在宅医療コーディネーターが中心となり、加賀市地域連携実務者連絡会を設置して市内医療機関同士の連携を強化し、業務の円滑化と質の向上ため取り組んでいる。また、介護職等からの相談対応や院内職員へ暮らしの視点を持った研修や実習、医療・介護関係者の研修会企画、運営に携わり、医療と介護の連携強化を図っている。
- ・加賀市医師会をはじめ市内の関係団体・機関が一体となって在宅医療・介護連携促進を実施している。具体的には医療と介護関係者による医療と介護の連携ワーキングにより、在宅医療コーディネーターの相談内容等からの課題抽出や、研修会、事例検討会等の必要な対応の検討を行い、医療介護連携推進に取り組んでいる。